

## 飯島賢二の 『恐縮ですが...一言コラム』

第 335 回 女心を掴む “ 普遍の真理 ” とは ~ ( 「 プレジデント 5 0 + 」 より )

2009.10.25

今回は、このほど刊行された「プレジデント 5 0 +」(プレジデント フィフティ・プラス PRESIDENT 2009.10.23 号別冊)の特集「夫と妻のかたち衝撃白書」から、興味深い記事が載っていたので、ご紹介したいと思っている。アラフォー (around 40 の略) もナイスミドルも、浮かれている場合ではない。

このアンケートの概略。対象は 40 代、50 代、60 代以上各 1,000 人の既婚者計 3,000 人 (いずれも男女半々)。設問は、日常生活における夫婦の会話時間、喧嘩の頻度や仲直りの仕方、パートナーやその親の介護を行う意思や墓の希望、現在・過去における異性や風俗経験、さらには浮気・不倫の体験数や願望等々、およそ夫婦の間で起こりうる不満や不平、そして訊きたくても訊くに訊けない「性の実態」について、ずばり切り込んで尋ねている。

その結果、ざっと半数近くの 45% もの夫婦が離婚の危機を経験したことがあると答えている。45% の内訳を見てみると、夫と妻の“温度差”に愕然とさせられる。

たとえば、「現在、離婚したいと思っている」夫は、40 代 11%、50 代 10%、60 代以上 6%なのに、妻のほうはそれぞれ 16%、13%、14%と、女性の方が確実に高い。特に 60 代以上の差に至っては、妻側の「定年後はどうぞおひとりさまでご自由に！」との強い意思を感じてしまう。

ほかにも驚くべき結果が出ている。夫婦関係の本音として、妻の 7 割は夫の実家の墓に入りたくない、妻の 6 割は夫の親を介護したくないと思っているようである。

これは困った...より詳しくは本誌をご覧頂きたいが、特集の中からチラッとご紹介すると...

例えば夫婦喧嘩、先に怒るのは妻 38%、謝るのは夫 45%。不満の主なもの、妻は 1 位「性格全般」、2 位「家計・金銭」、夫の 1 位は「家計・金銭」。性格が不満といわれたお父さん、いかんともしがたい状況にあるのだ！ もし生まれ変わったら妻「今の相手がいい」40%、「いや」60%...。いつまでもロマンチックなお父さん、お母さんの思いは全く違うのに、気がついていないようである。何やら狐と狸の化かしあいの様相を呈してくるが、それもまた長年連れ添った末の実像、いわば人間としての本能の発露なのかもしれない。(プレジデント編集部談 editor's letter)

その他、「シラケ夫と不機嫌女房の処方箋 15」、「健康、欲望、性...人に言えない悩み全解決 15」、「性生活と浮気」、「夫と妻の心理学、キーワードは、いつまでも男と女」、「恋愛に定年なし！ひと味違うデート術」等々、これは実にもう、必見ものである。

いやはや何やら、『プレジデント』の広告塔になってしまったようである。

しからば、どうすれば夫婦関係を改善できるのだろうか？ 心理学者、医師、弁護士、夫婦・離婚・再婚カウンセラー、浮気調査の女性探偵、性を極めた A V 男優、セックスセラピストなど、日本を代表する“その道の達人”たちの門をたたき、“最良の解”を導きだしている。彼らコメントを載せている達人たちが、口をそろえて指摘した、正に「金言」があった。夫婦だけでなく、世代を超えた「男と女の出会い」や「付き合い方」の“鉄則”ともいべき心構えであり、同時に「女心を掴む・もてる・損なわない」普遍の真理ともいえるものだ。それは何か??

あまりにも簡単なことながら、世のお父さんはつい忘れがちで、言われないと気がつかないこと。

**「女性が話しかけてきたら、断じて余計な口を挟まず、興味深げにひたすら黙って聞く！」**

ということであった。

フムフム... 妙に納得、肝に銘じておくことにする。